

平成27年3月24日

保護者の皆様

仙台市立燕沢小学校
校長 佐藤 由美

「平成26年度 燕沢小学校をよりよくするアンケート」の集計結果について

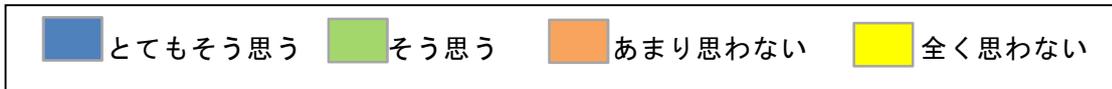
早春の候、保護者の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から当校の教育活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、遅くなりましたが、「平成26年度燕沢小学校をよりよくするアンケート」の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。保護者の皆様には快くアンケートにご協力いただき深く感謝いたします。学校では2月中旬に学校関係者評価委員会を開催し、今回の保護者の皆様のご意見を参考に、本年度の当校の教育活動についてご意見をいただきました。学校は、頂戴したご意見を基に、次年度も教職員一丸となってよりよい学校づくりに努めてまいり所存です。今年度に引き続き、温かいご支援ご協力をお願いいたします。

なお、当校の教育活動につきましてお気づきの点がございましたら、いつでもご連絡いただければ幸いと存じます。

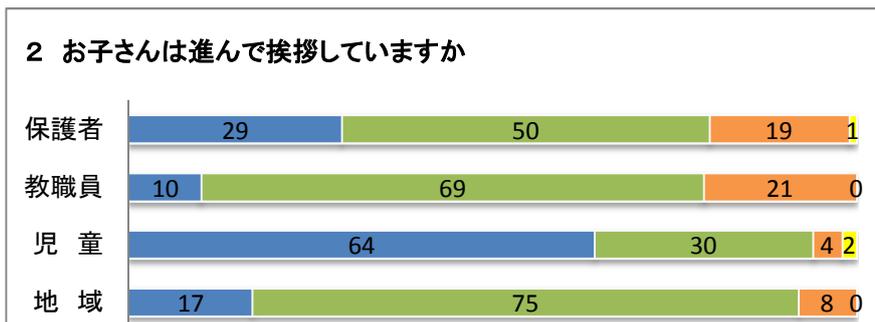
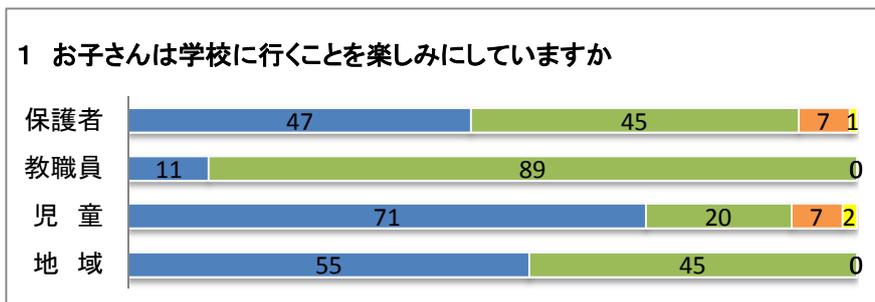
〈グラフの見方〉

- ・調査項目は、学校が本年度「めざす児童像」として掲げた〔Ⅰ 思いやりのある子ども〕、〔Ⅱ たくましい子ども〕、〔Ⅲ 自ら学ぶ子ども〕の3項目と、〈学校・家庭・地域との連携〉の大きく4項目に分けています。
- ・グラフは、左側から「とてもそう思う」、「そう思う」、「あまり思わない」、「全く思わない」の順に%で示しています。グラフ内の数字は、%を表しています。



- ・グラフの右側にグラフから分かることを、項目ごとに最後に今年度の結果を踏まえた次年度の取組等について記しています。

〔Ⅰ 思いやりのある子ども〕



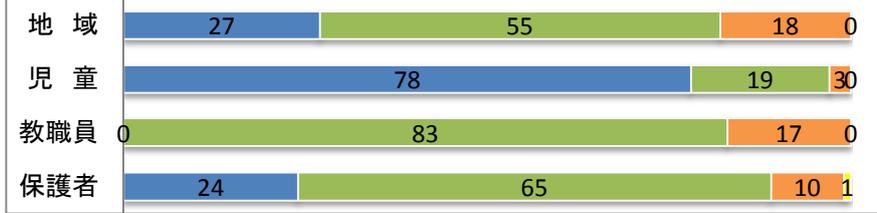
1 児童、保護者の90%以上の方が、楽しみにしていると答えています。学校が児童にとって楽しくて安心できる場所ととらえられているようです。

2 挨拶は、概ね児童に身に付いてきているととらえられますが、保護者と教職員の約20%がまだ不十分と回答しています。今年度の重点「自分から」「進んで」という目標が達成されたとは言えない状況と言えます。

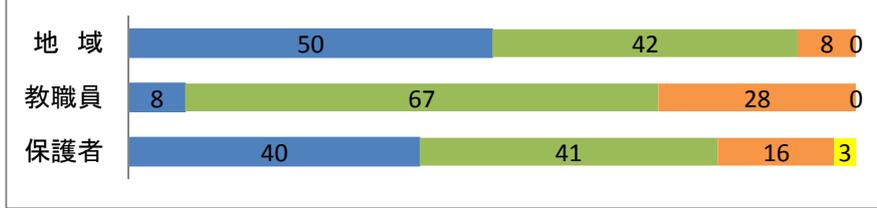
3 お子さんは場に応じた話し方・聞き方をしていますか



4 お子さんは相手の気持ちを考え、思いやりを持って行動していますか



5 お子さんは地域の行事に参加していますか



3 児童の90%以上ができていると答えていますが教職員の26%が不十分としています。場に応じた話し方について、まだ改善の必要があるにとらえています。

4 児童の97%ができていると答えていますが、保護者、教職員、地域の10～約20%は、十分とは言えないにとらえています

5 地域の方の90%以上が地域の行事に児童が参加していると評価しています。

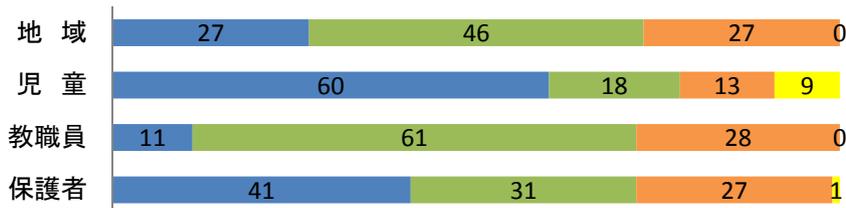
今年度の協働型学校評価の重点目標であった「進んで挨拶する」と「場に応じた話し方・聞き方」について、特に「挨拶」は4年目の取組となり、概ね児童には身に付いてきていると言えますが、地域から、挨拶をしてもその返事が返ってこない等のご意見が届くことがありました。昨今の社会状況を考えますと致し方ない面もございますが、今後も、挨拶は「自分から・進んで」することを学校生活の中で継続して指導してまいります。

また、児童会を中心に全校で取り組める挨拶運動の展開を考えさせ、子ども達自身に挨拶について考えさせる場面を設ける等の工夫をしてまいります。学校評議員・関係者評価委員会では、「子どもは知っている人には挨拶をする」とのご意見をいただきました。これからも地域の方には積極的なお声掛けをお願いしたいと思います。

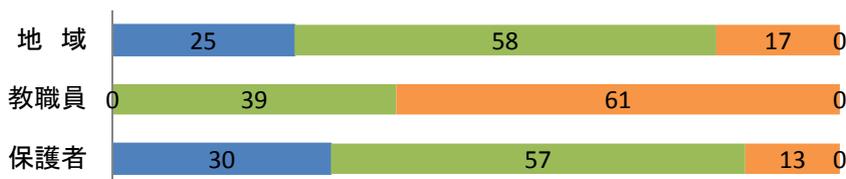
「場に応じた話し方・聞き方」ができる子どもの育成につきましては、教職員の26%がまだ不十分としています。普段の学校生活の中で「話し方・聞き方」の力をもっと伸ばしていけると実感している現れと言えます。今年度、教職員は校内研究で、「聞き方・話し方」の力を伸ばす具体的な指導法について研修を進めてきましたが、次年度も継続して研究を進めてまいります。

〔Ⅱ たくましい子ども〕

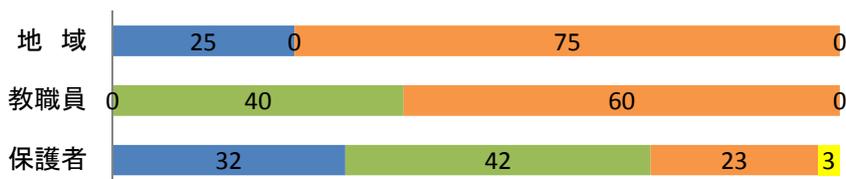
6 お子さんは進んで運動していますか



7 お子さんは安全に気を付けて生活していますか



8 お子さんは「早寝・早起き・朝ご飯」等の規則正しい生活習慣が身に付いていますか



9 お子さんは何事も最後まであきらめず取り組んでいますか



6 運動に関して、保護者、教職員、地域の約30%が不十分としています。児童の中にも、約10%が運動していないと答えています。

7 保護者や地域の方と比べ、教職員の安全に対する厳しい見方が浮き彫りになっています。これは校内外での避けられる事故の発生の多さが起因していると思われます。

8 教職員の60%が規則正しい生活習慣が十分に身に付いていないとしているのに対し、保護者の70%以上が身に付いているとしています。

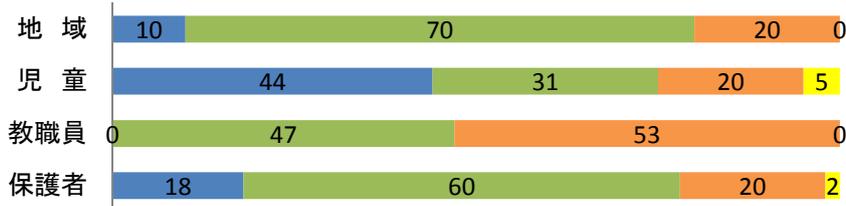
9 児童の半数以上が、最後まで諦めずに取り組んでいるとしていますが、保護者と教職員は共に、25%が諦めやすいとらえています。

たくましい子どもの育成を図る上で、適度な運動は欠かせないことですが、アンケート結果から、保護者と教職員の約30%が運動に物足りなさを感じ、児童も20%以上が運動に対しマイナス評価をしています。今年度校内の体育部は、運動能力テストの結果（投てきの力が特に低い）を踏まえ、毎朝体育委員が校庭にドッジボールコートの白線引きをしたり、冬場の運動不足解消のため長なわタイムを設定したりするなど、運動できる環境の整備に取り組みました。次年度もこの活動を継続すると共に、体力の向上をめざし、運動することの楽しさを味わわせるような取組を考えていきます。

「安全な生活」と「規則正しい生活習慣」については、保護者と教職員の児童のとらえ方に、大きな開きが生じています。第2回の学校評議員・関係者評価委員会で、学校が求める安全な生活や生活習慣がどのようなものなのかを、しっかりと家庭に伝え、保護者の皆様からの具体的なご協力をわかりやすく伝える必要があるとのご指摘を受け、冬休み以降の『よい習慣づくりカード』の取組において実践しました。校内外で、「安全」で「規則正しい生活」を児童の身に付けさせるためには、保護者の皆様のご協力は必要不可欠です。今後もこれまで以上のご協力をお願いいたします。

〔Ⅲ 自ら学ぶ子ども〕

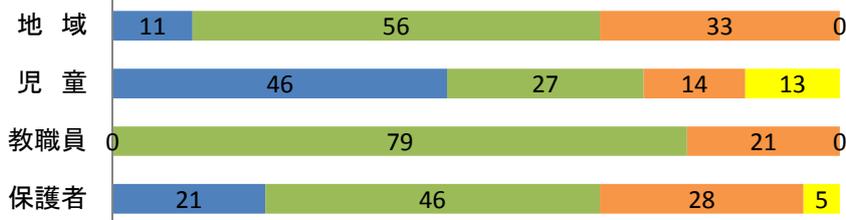
10 お子さんは自分の考えをきちんと話すことができますか



11 お子さんは進んで読書をしていますか



12 お子さんは進んで家庭学習に取り組んでいますか



10 「考えを話す」ことについて、保護者の約80%ができているとしていますが、教職員の50%以上が不十分であるとしています。

11 「読書」については、保護者と教職員共に、約60%が読書をしていると回答しています。児童は、25%がしていないと回答しています。

12 「家庭学習」については、教職員は79%が取り組んでいたと回答しましたが、保護者は67%に留まっています。また、児童の13%が全く家庭学習に取り組んでいないと回答しています。

「自分の考えをきちんと話す」ことについて、保護者と教職員の児童のとらえ方に隔たりを感じます。これまで学校が、「きちんと話す」とは、具体的に子どものどのような姿を指し示しているのかを、十分に家庭に伝えていないことも原因の一つと考えられます。学校では、「物事に対して自分の考えを相手に分かるように、根拠を示しながら話す」ことを目標としています。今年度の後半から、全校で、「根拠を示してから自分の考えを話す」ことに取り組んできましたが、少しずつその効果を実感しています。次年度も国語はもちろんのこと、全ての教科・領域において是非継続して取り組んでいきたいと考えています。

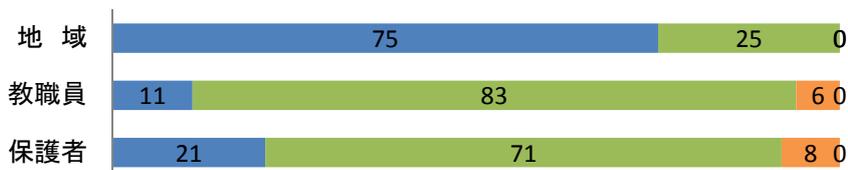
「進んで読書に親しむ」ことは、今年度の重点目標でしたが、アンケート結果はやや低調な結果となりました。昨年よりも平均貸出冊数は増え、目標は達成されていますが、保護者・教職員そして児童は、まだ満足とは言えない状況です。次年度、さらなる取組が期待されます。

「読書」について学校評議員・関係者評価委員会では、児童が本を読みたくなる環境を整えていくことも重要で、町内会の協力を得ながら、地域（家庭）に眠っている本を資源回収等の機会を利用し集め、学校の蔵書を増やすことを考えてはどうか、というご意見もいただきました。関係機関との連携を図り、本校PTAの協力を得ながら進めていきたいと思えます。

「家庭学習」は、昨年と比べ定着が図られてきています。しかしながら、13%の児童が全く取り組んでいないと回答しています。家庭学習については、取組に対してしっかり取り組んでいる児童とそうでない児童の二極化傾向が見られます。学校では、課題の量や質などを吟味し、児童が家に帰ってから進んで取り組みたくなるような魅力ある課題を工夫していきます。家庭学習は、ご家庭の協力がなければ定着は図れません。今後とも、保護者の皆様の協力をお願いいたします。

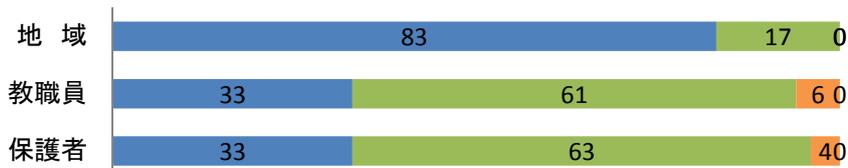
〔IV 学校・家庭・地域との連携〕

13 学校は教育方針や重点目標・学年目標・教育活動等をわかりやすく伝えてありますか



13 学校からの情報提供・発信が保護者や地域の方々に概ね伝わっていると感じられる結果になっています。

14 学校は地域素材を活用し、地域の方々と連携した学習を展開することに努力していますか



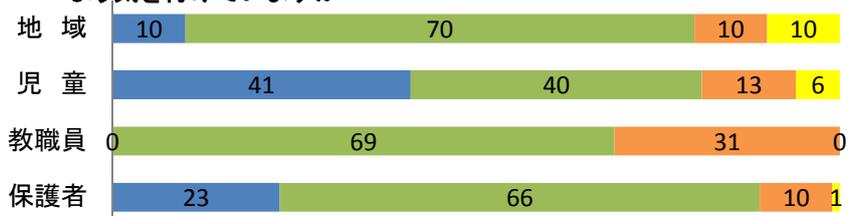
14 保護者と教職員が共に90%以上が地域との連携が図られた学習を進めていると評価しています。

15 学校は、保護者・地域と連携した安心・安全な学校づくりを進めていますか



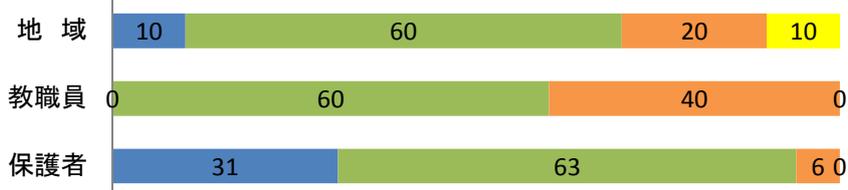
15 保護者と教職員のほとんどが、保護者・地域と連携した安心・安全な学校づくりをしているととらえています。

16 ご家庭では気持ちのよい挨拶や正しい言葉遣いをするよう気を付けていますか



16 保護者の約90%が家庭で、「挨拶と言葉遣い」に気を付けていると回答しています。児童の約20%は気を付けていないと回答し、教職員も30%以上が十分に気を付けていない、と回答しました。

17 ご家庭ではお子さんが規則正しい生活がおくれるよう気を付けていますか



17 保護者の90%以上が、規則正しい生活が送れるように気を付けていると回答しましたが、教職員の40%が十分に気を付けていないと回答しています。

学校と特に地域との連携は、これまでのつながりを生かし、よく連携が図られているととらえている方がほとんどでした。今後も学校と地域の連携を生かし、特色のある教育活動の実施に向け、ご協力をいただきたいと思います。

地域との連携について学校評議員・関係者評価委員会では、児童の学習面のサポートをこれまで以上に積極的に行うボランティアを広く求め、地域の人材を学校に取り込んでいく工夫が必要と

のご意見を頂戴しました。(例えば、新入生が学校生活に慣れるまでお世話をする、講師として地域の昔の様子をお話してくれる、スケート教室のお手伝いをしてくれる等々)そこで学校では、協力いただける方のとりまとめをする「学校支援地域本部」を立ち上げて、これまで以上に地域の方々からご協力をいただき、より地域に密着する形で学校運営を進めていきたいと思ひます。

保護者の皆様との連携につきましては、今後もますます結びつきを強め、「挨拶」「言葉遣い」「基本的生活習慣」等につきまして、足並みをそろえて指導に当たっていくことで、効果を上げていきたいと考えています。今年度の学力検査や生活状況調査等の結果と学力の関係を見ますと、学力の向上には家庭生活の充実が欠かせないことが明らかになりました。次年度、これまで以上のご協力をお願いいたします。

【V その他】くもっと楽しく学校生活を送れるようにするための改善点として挙げられたご意見【抜粋】

- 人気の給食やプラスバンド部の活動、地域に根ざした活動など、自慢できる点がたくさんある学校だと思ひます。是非、ホームページを充実させて広く知ってもらえたらと思ひます。
→ホームページの充実に関しましては、年度の途中からではありましたが、学校ブログを開始し、できるだけ子ども達の活動の様子を紹介してまいりました。また、トップページに【学校からのお知らせ】を設け、すぐに学校からのお知らせ等がご覧いただけるようにしました。今後も、より多くの方々に喜んで見ていただけるようなホームページ作りを進めてまいります。
- 緊急メールで送られる「不審者情報」の情報が少ないです。日時・時間・人物像・被害状況等を詳しく知りたいです。
→もっともなご意見ですが、学校に不審者情報が伝わってくる場合、詳細が把握できる案件は多くはありません。とりあえず、保護者の皆様に注意喚起の必要がある場合、知り得ている情報を基に緊急メールを発信することが多いことをご理解ください。また、事案によっては、被害児童が特定され不利を被ることが考えられる場合、あえて詳しい内容をお知らせしないこともございますことをご理解ください。緊急メールにつきましては、今後も保護者の皆様に、できるだけ迅速に正確な情報をご提供できるように努めてまいります。
- 正しい通学路を通過して登下校しているかの確認をした方がいいように思ひます。また、寄り道せずにまっすぐ帰ることを、学校と家庭とで、もう一度確認する必要があると思ひます。
→今年度は、特に冬休み以降ですが、帰宅時間を守らず保護者の方々をご心配させる事案が目立ちました。学校側も家庭でも、下校や帰宅時間を守るように、常日頃から子ども達には伝えていますが、今後とも学校と家庭、さらに地域の方々にもご協力いただき、子ども達への声掛けを積極的に行っていくと思ひます。また、通学路の確認につきましても、年度当初に各学級で徹底して指導を行います。なお、保護者の皆様も休みの日などにお子様と一緒に歩きながら、通学路の安全についてご確認いただきたいと思ひます。